

麻機遊水地

あさはた緑地・麻機遊水地第3工区

この一帯は、昔は「浅畑沼」と呼ばれた湿地帯で、一面アシが生い茂っていました。1974年（昭和49年）7月7日に発生した七夕豪雨で、大きな水害が起き、その後の治水のため、遊水地としての整備事業が行なわれてきました。流通センターに隣接した第3工区には、野鳥観察所やあずまやが設置され、多くの野鳥や昆虫、植物の観察者が集まります。

あさはた緑地は、自然とふれあう体験型の都市緑地として整備された公園です。

むし

トンボ

- ハグロトンボ**


体長6cmくらいで、まっ黒な体は特徴です。オスの腹部は緑色に輝くが、メスは光沢がありません。
- マユタテアカネ**


はねを広げると6cmくらいのアカトンボの仲間です。夏には森の近くで、秋になると水辺に出てきます。顔面に盾のような斑紋があります。
- アオモンイトトンボ**


体長3cmくらいの黒と緑がまじった小さなトンボです。オスは腹の先端の青色が目立ちます。
- コフキトンボ**


はねを広げると7cmくらいで、池沼の岸辺に住みついていて、メスにはオビトンボという、オレンジ色の型が見られます。
- ギンヤンマ**


はねを広げると10cmくらいで、オスは腹の根元が青と銀色で、日中に池沼の水面を飛んでいます。
- ウスバキトンボ**


はねを広げると8cmくらいで、名前のとおりはねがうすく、体は黄色っぽいトンボです。世界で最も広く分布しています。
- オオヤマトンボ**


はねを広げると10cmくらいで、緑色の眼と胸腹部の黄色の斑紋が特徴です。池沼の上を岸に沿って飛びます。
- ヨツボシトンボ**


はねを広げると7cmくらいで、はねの中間くらいに黒い斑紋があります。からだがかたく毛深いのが特徴です。

むし

コウチュウ

- コハンミョウ**


1cmくらい小さいコハンミョウです。地面付近を素早く飛び回り、大あごを使って他の昆虫類を捕らえて食べます。
- ゴマダラカミキリ**


体長25～35mmの大型のカミキリムシです。全身が黒く白い斑紋があります。都市部の雑草等でも見られます。
- アオドウガネ**


体長17～26mmのコガネムシです。体は丸く、緑色の金属光沢です。成虫は広葉樹の葉を食害します。
- キボシカミキリ**


体長15～30mmくらいです。黒地に黄色の斑紋があります。幼虫はクワ、イチジクなどの生木を食害します。
- コガネムシ**


体長17～23mmのコガネムシです。体色は光沢のある緑色、赤紫などです。植生は食害性です。
- ヨツモンカメノコハムシ**


体長7～9mmで、扁平な体に大きな黒い斑紋が目立ちます。サツマイモとアサガオが食害です。
- カメノコテントウ**


体長11～13mmの大型のテントウムシ。成虫はクルミノミシ等ハムシ類の幼虫を食べます。成虫で越冬します。
- オジロアシナガソウムシ**


体長9～10mmくらいです。普通にみられるソウムシで、食草のクサの上で見られることが多いです。

むし

チョウ・その他

- アオスジアゲハ**


黒地の翅に水色の筋があり、とても早く飛びアケボノチョウの仲間です。幼虫はクスノキの葉を食べて育ちます。
- ウラギンシジミ**


シジミチョウの仲間では最も大きく前翅の長さは3cmくらいで、樹上を活発に飛び、裏の銀色が目立ちます。
- ツバメシジミ**


前翅の長さは1cmくらいで、早春から秋遅くまで、川原など見られる。食草のメンドクサなどでよく吸蜜します。
- ダイミョウセセリ**


前翅の長さは1.5cmくらいで、セセリチョウの仲間です。平野部の林縁でよく見られ、活発に飛び、はねを広げて止まります。
- コムスジ**


黒地に白い3本のスジがあり、前翅の長さ2.5cmくらいで、春から秋まで雑木林の林縁で見られます。
- クロコムラサキ**


コムラサキの遺伝型で、地色が黒褐色、中央が白帯となっています。5、7、9月に発生し、ヤナギの木の樹上を軽快に飛びまわります。
- アカギカメムシ**


体長2cmくらいで、体色が赤から黄色で、アカメカシワを食害します。最近静岡市内でも分布を広げています。
- トノサマバッタ**


緑色または褐色で、はねは濃茶色と白色のまだら模様の大きなバッタです。7～11月に、空き地や河原などで見られます。

とり

- オオハクチョウ** 冬鳥
 

全長150cmくらいの大型の鳥。冬にシベリアの方から渡ってきます。麻機沼ではこの数年、少数越冬しています。
- コガモ** 冬鳥
 

全長35cmくらいの小型のカモ。体の横断面にレモン色の横ラインがあるのが特徴です。
- カルガモ** 留鳥
 

全長60cmくらいで、1年中見られます。オスメスとも同色で、湿地の草の中などで繁殖します。
- オオバン** 冬鳥
 

全長37cmくらいで、全身黒くクチノシの上の額が白い。近年渡来する数が増加し、よく見られる鳥です。
- ヒドリガモ** 冬鳥
 

体長48cmくらいで、雄は頭が茶色、体が灰色です。メスは全体に茶褐色です。ヒューと独特の声を鳴きます。
- ケリ** 留鳥
 

体長35cmくらいで、田んぼの畔などに巣を作ります。外敵が来るとキリキリと大きな声で、飛びながら威嚇します。
- マガモ** 冬鳥
 

全長60cmくらい、オスは頭が緑色で体は灰色です。メスは全体に黄土色と黒褐色のまだら模様です。
- カワウ** 留鳥
 

全長90cmくらい、全身まっ黒で、水中に潜り魚を丸呑みします。水辺の杭や木の上に泊まっているのが見られます。

- イソヒヨドリ** 留鳥
 

全長20cmくらいで以前は海岸地帯に生息していたが、近年は都市部でも繁殖しています。オスは青色で、メスは褐色です。
- ハクセキレイ** 留鳥
 

全長21cmくらいで、平地から山地の森林以外のさまざまな場所で見られます。尾を振りながらエサの虫を探します。
- アオサギ** 留鳥
 

全長93cmくらいで、全身黒くクチノシの上の額が白い。近年渡来する数が増加し、よく見られる鳥です。
- キセキレイ** 留鳥
 

全長20cmくらいで、腹部に黄色がまじります。主に山地の川沿いで1年中見られます。
- ダイサギ** 留鳥
 

全長100cmくらいで、田んぼの畔などに巣を作ります。水辺で静かにたたずみ、機会を待つ魚などを捕食します。
- セグロセキレイ** 留鳥
 

全長21cmくらいで、頭から背中にかけて黒色です。主に水辺で1年中見られます。日本特産種です。
- コサギ** 留鳥
 

全長60cmくらいで、1年中見られます。他のサギとは脚が黒く指先が黄色いので区別できます。
- コゲラ** 留鳥
 

全長15cmくらいで、小型のキツツキで、ギィ、ギィと鳴きます。木の皮の下の虫をついて食べます。

- コシアカツバメ** 夏鳥
 

全長19cmくらいで、繁殖期のため、春に渡ってきます。ツバメより少し大きく、腰が赤茶色をしています。
- メジロ** 留鳥
 

全長12cmくらいで、からだの上面はやや暗めの黄緑色で、眼のまわりは白色、脚は黄色になります。
- シジュウカラ** 留鳥
 

全長15cmくらいで、背と頭のほかに胸のまん中も黒くまいます。山地から里や人家まわりに1年中見られます。
- ヒヨドリ** 留鳥
 

全長28cmくらいで、全身が灰褐色、長めの尾を持っています。平地から山地の林や、市街地でも1年中見られます。
- ムクドリ** 留鳥
 

全長24cmくらいで、小型の鳥でキュル、キュルと騒がしく鳴きます。人家のまわりや雑草などで1年中見られます。
- トビ** 留鳥
 

全長33cmくらいで、くびく青色をおびた灰色の模様があるハトです。平地から山地の林や、市街地などに見られます。
- トビ** 留鳥
 

全長60cmくらいで、タカの仲間です。トンビとも呼ばれ、輪を描きながら空高く飛びまわります。ピーヒョロロと鳴きます。
- ハシブトガラス** 留鳥
 

全長55cmくらいです。都市部から山地まで広く分布し、雑食性で何でも食べます。クチバシも太く、カア、カアと鳴きます。

さかな

- カワムツ**


体長20cmくらいになる淡水魚で、主に川の上流～中流にすんでいます。オイカワにくらべ、水の汚れに弱い魚です。
- カマツカ**


体長15～20cmくらいで、河川の中流の砂底に生息し、水生昆虫などを捕食します。
- ギンブナ**


一般的には、体長15～20cmくらいで、止水もしくは流れの緩い河川などに棲み、雑食性で底生動物や藻類などを食べます。
- シマヨシノボリ**


全長5～6cmくらいで、川底が岩、小石の場所を好み、雑食性で小魚、昆虫、底生動物、藻類などを食べます。
- オイカワ**


全長約10cmの川魚です。繁殖期の5～8月では、オスは水色と桃色の鮮やかな体色になり、ひれが赤色を帯びます。
- モツゴ**


体長8cmくらいで、河川やため池、水田など幅広い水域に生息します。雑食性で、水生昆虫や付着藻類などを食べます。
- ニシシマドジョウ**


体長6～7cmくらいです。河川中流域の流れが緩い場所に生息し、底層の豊富な藻類の場所を好み、底生動物などを食べます。
- トウヨシノボリ**


体長4～10cmくらいで、河川では中流の瀬や、浅瀬の淵が多く、雑食性で、主にトビケラなどの水生昆虫を食べます。